

令和3年度学校運営連絡協議会実施報告

東京都立東村山高等学校
統括校長 川瀬 徹

1 組織

- (1) 東京都立東村山高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、第3学年主任 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長2名、経営企画室長、主幹教諭（教務主任）、主任教諭（生活指導主任）、
主幹教諭（進路指導主任）、主任教諭（保健主任）、主幹教諭（1学年主任）、
主任教諭（2学年主任）、主任教諭（3学年主任） 計11名
- (4) 協議委員の構成
東京経済大学副学長（竹内秀一）、東村山市教育委員会教育部学校教育担当次長兼指導課長
（木下信久）、東村山市立第五中学校長（安藤 環）、東村山市立久米川東小学校長（芦沢茂樹）、
東村山警察署生活安全課少年第1係統括係長（野崎秀文）、東村山高等学校PTA会長（萩原直規）計6名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和3年 6月 9日（水） 保護者控室・・・集合開催は中止
新型コロナ感染症対策のため、書面での開催及び意見集約
①校長挨拶 ②協議委員委嘱・委員紹介 ③令和2年度学校運営連絡協議会報告
④本年度東村山高校学校運営連絡協議会年間計画 ⑤令和2年度学校経営報告
⑥本校の教育活動紹介 ⑦意見交換 ⑧本年度評価委員及び委員長の選出
⑨事務連絡
※学校要覧、⑥本校の教育活動及び年間行事計画等を送付
第2回 令和3年12月 8日（水） 保護者控室
①学校長挨拶 ②本校の現状と課題の説明 ③学校評価アンケートの検討
④学校評価委員会の予定 ⑤意見交換 ⑥その他
第3回 令和4年 3月 18日（金） 保護者控室・・・集合開催は中止
まん延防止等重点措置が取られていたため、集合での開催は中止とした。
①学校長挨拶 ②本校の現状と課題について ③学校評価アンケートの考察
④評価委員会からの提言 ⑤意見・情報交換、改善への提言 ⑥その他
- (2) 学校関係者評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和3年12月 8日（水） 保護者控室
① 学校評価の基本方針 ②令和3年度の学校評価アンケート項目の整理
第2回 令和4年 3月11日（金） 東村山市立第五中学校に持参
①アンケート集計結果の分析・考察 ②課題の整理
※令和3年度の学校運営連絡協議会について、年間3回の協議会及び年間2回の評価委員会の実施
を予定していたが、第1回目、第3回目については、まん延防止重点措置状況下であったため、
書面開催を行い、意見を集約し学校運営に活かした。第2回目に関しては、対面での実施を行い
学校の教育活動の報告をするとともに、新校舎の案内等、充実したものとなった。

3 学校運営連絡協議会による学校関係者評価

- (1) 学校評価の観点
①学校生活 ②学習指導 ③生活指導 ④進路指導 ⑤特別活動・部活動
⑥健康指導・安全指導・教育相談 ⑦体罰防止 ⑧エンカレッジスクール（1年生のみ）
の8観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・ 1 2 月 全校生徒 対象： 5 4 7 名 回収： 4 8 4 名 回収率： 8 8 %
- ・ 1 2 ～ 1 月 全校保護者 対象： 5 4 7 名 回収： 2 4 2 名 回収率： 4 4 %
- ・ 1 2 月 教職員 対象： 4 6 名 回収： 4 3 名 回収率： 9 3 %
- ・ 月 地域住民等 実施なし
- ・ 1 2 月 学校運営連絡協議会委員 5 名

(3) 主な評価項目

8 観点に基づいて、学校の実態に合わせて適宜設定する。自由意見もまとめる。

- ・ 一部、コロナ禍で実施できなかった項目があった。

(4) 回収率

今年度は、アンケート用紙での調査をせず、回収・集計の効率化を図るため、F o r m s によるアンケートを実施した。回収率の状況から周知の方法を含め改善が必要と考える。

- ・ 生徒の回収率は、全体で 8 8 % であった。（昨年度は 9 7 %）
- ・ 保護者については、4 4 %（昨年は 5 1 %）であった。昨年度より 7 ポイント下がっている。学校に対する意見や理解度を把握するために、保護者への声かけや回収方法、時期等を検討し回収率を上げていきたい。
- ・ 地域に関しては、例年、保育園、小・中学校の教職員、東村山市社会福祉協議会会員にアンケートを依頼していたが、今年度は、連携等も無く、本校との情報交換なども実施できなかったためアンケートの依頼を見送っている。

(5) 分析と考察

- ・ 学校に対する満足度

生徒は、「東村山高校に入学してよかった」が 8 0 % であった。大部分の生徒は本校に入学してよかったと考えているが、転出者や退学する生徒が 7 % 程度いるため、学校の魅力を上げ、学び直しの更なる充実と進路先の開拓等、生徒のニーズに合った学校づくりを進めていく必要がある。また、修学旅行はじめ学校行事等が中止となったため、生徒のモチベーションが上がらなかったと考える。保護者に関しては、9 3 % と本校の学習活動に好意的な状況である。「学校生活は楽しく、充実している」については生徒全体 7 8 % で昨年度と変化はみられなかったが、今年度の状況を考えると、東村山高校に満足して通学している割合は高いと考えられる。保護者アンケートを見ると、入学前から本校への期待も大きく、学び直しを含め、本校の教育活動への期待度は年々増していると考えられる。教員は「東村山高校に入学してよかった」が 9 5 %、「学校生活は楽しく、充実している」が 8 8 % と回答しており、生徒と保護者の高い満足度を反映して教育活動に臨んでいると考えられる。

- ・ 学習指導に対する満足度

教員の教え方などに対する満足度は、8 5 % であった。保護者についても、8 5 % と高い状況であるが、先生の指導について一部ご意見もいただいている。教科間の指導の一貫性など学校として共通理解を持ち指導に取り組む必要がある。授業やテスト勉強など、積極的に勉強に取り組んでいると回答した生徒は 6 1 % であった。家庭学習を含め、課題の出し方など工夫し「自ら学ぶ」力を育成していきたい。保護者については、8 1 % と保護者からの期待の高さが伺える。

引き続き、課題提出や定期考査への取り組み、家庭での学習習慣を確立できるよう指導を行い、ポイントの向上に向けて一層の指導が求められる。

- ・ 生活指導に対する満足度

基本的生活習慣が身についているかについては、生徒 8 6 %、保護者 9 8 %、教員 7 4 % であり生徒・保護者に比べて、教員の数値が若干低い結果となった。エンカレッジスクールの本校では入学する生徒が多様であり、指導が難しい面もあるが引き続き指導を継続していく。服装・頭髪指導については、厳しいと自由意見で書かれた方もいるが、ルールやマナーについては本校の重点目標であるため、次年度も継続して指導していく。

- ・ 進路指導に対する満足度

進路については 1 学年から計画的にキャリア教育を行っているが、生徒のニーズに応えているかについては、教員が 9 8 % で熱心に取り組んでいるが、生徒 8 8 %、保護者 8 3 % となって

いる。多様な進路実現に向け、キャリア教育を積重ねている結果ではあるが、近年、進路未決定の者が増加傾向であるのも事実である。改めて、「進学応援型エンカレッジスクール」の本質を考え、生徒一人一人が自ら考え進路を決定できるよう進路指導部を中心にキャリア教育を組立ていく必要がある。

- ・ 特別活動・部活動に対する満足度

ホームルームに対する満足度は、生徒75%、保護者80%である。また、昨年、今年と新型コロナウイルス感染症予防の観点から、学校行事が中止となるケースが増えていたため、学校行事に対する満足度は、生徒56%、保護者47%、教職員53%高くない状況が続いている。工夫を凝らし、文化祭は実施したが、2年生に関しては修学旅行の中止など大きく影響していると考えられる。部活動に対する満足度は、生徒68%・保護者64%で、横ばい傾向であるが、活動時間や活動内容が制限された影響と考えられる。今年度も、バドミントン部、ビームライフル部が活躍し優秀な成績を残している。

- ・ いじめなどに対応した教育相談・健康指導・安全指導に対する満足度

悩みや、いじめなどを相談するカウンセリング等の教育相談が充実しているかについての満足度は、生徒81%、保護者79%であるが、学校でのトラブルは生活指導部、学年担任、自立支援チームと連携を図って取組んでいる。生徒に対しては、「いじめアンケート」を年間3回実施していじめの兆候を早期に捉えようとしている。さらに、スクールカウンセラーに加えてユースソーシャルワーカーを配置した自立支援チームを中心とし、相談に訪れる生徒の家庭環境などにも専門的な立場から支援を行うことができる体制を整え、経済的な側面もフォローしている。健康指導については、生徒が76%、保護者が70%であるが、アレルギーなどの生徒が増えたのとあわせ、問題を抱えた生徒の増加傾向が見られる。安全指導については、生徒が81%、保護者が83%で、避難訓練や経路の確認など制約のある中での実施にとどまった。

- ・ エンカレッジスクールについて（1年生のみ）

「30分授業」・・・生徒69%、保護者63%、教職員93%の満足度で、20ポイント以上減少している。

「2人担任制」・・・生徒88%、保護者95%、教職員91%の満足度で、いずれも増加した。

「学び直し」・・・生徒81%、保護者88%、教職員74%の満足度で、教職員について基礎の定着が身についていないと考える者が多くいる。

「体験学習」・・・生徒85%、保護者88%、教職員98%の満足度で、一定の理解を得ている。

上記4項目のエンカレッジスクールにおける取組は、満足度が高く理解を得られているが、30分授業に関して大きくポイントを落としている、授業の進め方や内容について見直す必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 本校で実施している各種活動と新校舎への移転後の状況報告。コロナ禍の学習活動についての対応、交通安全や自転車のマナーについての取組、特別進学クラスでの英検受検への取組等の内容を、委員である東村山市教育委員会、市内小中学校、警察署等に周知することができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- ・ 地域に対する「進学応援型エンカレッジスクール」としての広報。
- ・ SNSでのトラブルや悩みを抱える生徒などへの対応。
- ・ いじめ等の報告について、アンケート結果が全てではなく、日常の生徒把握を進めるよう助言をいただいた。
- ・ 校舎移転後、次に控えるグラウンド工事での近隣住民への配慮。
- ・ 学力向上への取組の必要性。
- ・ オンライン授業等の対応。
- ・ PTA活動への保護者理解の啓発。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 東村山高校の存在意義

- ・東村山高校は地域の要望によって設立された高校であり、地域に根ざした学校として発展に期待。
- ・進学応援型エンカレッジスクールとして、学び直しとキャリア教育に期待。
- ・地域に理解される生徒の育成。

(2) 学校運営

- ・生徒の全員進級・卒業を目指し、転退学者の減少に向けて引続き指導。
- ・「学びの基盤研究協力校」「学力向上研究校（校内寺子屋）」等の取組の充実。

(3) 学習指導

- ・英語検定・漢字検定・数学検定等の受験。
- ・各教科で一貫した指導と基礎学力の定着を基本に置いた学習指導。
- ・学力調査を活用した教育活動。
- ・進路実現に向けた、幅広い学習指導。

(4) 生活指導

- ・頭髮、化粧、スカート丈などの指導。朝の立ち番等実施。
- ・生徒の規範意識の確立。
- ・自転車の乗車マナー等、通学時のマナー向上。安全教育指導。

(5) 進路指導

- ・学力と定着させ、一般受験の力を養成。
- ・将来の就職を見据えた職業観・勤労観の育成
- ・幅広いニーズに対応した進路指導。

(6) 特別活動・部活動の充実

- ・運動部、文化部ともに活躍とその支援
- ・若鳩祭や体育祭を通じた、学校行事への積極的な参加。
- ・学校行事への保護者の参加。

(7) いじめなどに対応した教育相談・健康相談・安全指導

- ・いじめの未然防止、早期発見に努力。
- ・自立支援チームの活用と教育相談の充実。

(8) 体罰防止

- ・教員研修の活用と未然防止。
- ・体罰を否定する学校環境の確立。

(9) 進学応援型エンカレッジスクールと開かれた学校づくりについて

- ・二人担任制、30分授業、体験学習などエンカレッジスクールの特徴を広報。
- ・生徒会、部活動の活性化とボランティア活動の充実。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員数 6人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
4	2	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 なし 企画調整会議 なし

8 その他 特記事項なし